

被災宿泊体験 生徒会参加活動報告書

日時：2020年1月18日(土)・19日(日) 14:20～翌日 7:00

場所：市立浦賀中学校 体育館

参加者：2年石田成宏

報告者：2年石田成宏

補筆 武田 校正 荒川 伊藤



参加者全員での集合写真

◆ 活動の理由と目的

- ①. 中学校の体育館を借りて行われる宿泊体験に参加し、被災地での避難生活の大変さを知る
- ②. 前もって避難の知識を蓄え、避難生活の時に対応できるようにする
- ③. 体験したことを三浦学苑に持ち帰り本校生徒に伝える

◆ 活動内容

今回、阪神淡路大震災から25年目ということもあり、市の災害ボランティアネットワークが企画した被災宿泊体験の参加募集が打診されたのが先週の木曜日頃でした。あまりに急なことでしたので、生徒会の中でも参加に手を挙げることは私だけでした。本校生徒会は2011年の東日本大震災を契機に防災活動をしていこうという方針を持ちました。そこから生徒会には防災担当が置かれ、赤十字の活動や、市の活動に参加してきました。ですから、1名だけの参加は非常に残念でした。



寒い中時間をつぶすにはトランプが一番

今回は、避難生活の実態を学ぶために浦賀中学校の体育館で一泊しました。当日は、14時半に宿泊をする浦賀中学の体育館に集合しました。浦賀中学校は丘の上であり、あいにくの雨ふりで寝袋や荷物を持っての移動は、すこし大変でした。到着後は、宿泊場所を確定するために、体育マットや、サポートセンターが用意した長いゴザを敷き詰める作業に加わりました。湘南学院のJRCメンバー4名も参加し、

協力して準備をしました。夕食前は多少の時間があり、高校生同士でゲームをして過ごしました。夕食は湯せんをしたパックご飯とレトルトカレーとティーパックのお茶でした。夕食後は、震災に対する備えとしての知識を学ぶ講習が行われました。講習後、防災ゲームということで、体を動かして宿泊に参加したメンバーで交流を深めました。特に小学生の参加も10名ほどいましたので、高校生が先に立って一緒に過ごしました。

就寝は10時、起床は翌朝の6時。起きたら体育館の原状復帰のためにマットの撤去等を行って、ラジオ体操、7時に解散となりました。あっという間の経験でしたが、体育館に段ボールを引いて寝袋で寝て、それぞれが助け合って過ごす体験は貴重だと思いました。



レトルトカレーの夕食

◆ 感想

今回、真冬に災害が起こった想定で、中学校の体育館で寝起きをする被災宿泊体験しました。火の気もないので、服をたくさん着込み出来るだけの防寒対策をしました。しかも、この日は雨も降っていて、夜になるとどんどん気温が低くなっていくのが分かるほどの寒さでした。こうした体験をしたことで避難生活が想像以上に寒いということが分かりました。私たちはカイロや温かい飲み物を頂いて寒さをしのぎ、一晩を過ごしたという感じです。今回は一泊だけでしたがこれが長く続くとすると、精神的にも肉体的にもきついなと感じました。被災地の避難生活の大変さを感じ取ることができたと思います。この体験をぜひ後輩たちに伝え、日頃の準備の必要性や、物品の用意など私たちの出来ることを多くしていけたらと考えました。



寒さの中の講義はこんな感じです

記:生徒会2年石田成宏



高校生参加者5名(湘南学院4名+三浦学苑1名)